

3 県内の取り組み紹介

ここでは、県内の学校での森林体験活動の取り組みを紹介します。

実施方法や教科の位置づけなどを参考にしてください。

1 甲府市立甲運小学校の取り組み

① 活動のねらい

【森を育てる活動・自然とふれあう活動】

- ・ 植林体験を通して、森を育てる大切さや大変さに気づく。
- ・ 森がいろいろな動植物を育てていることに気づき、森の大切さを学ぶ。

【森を守る心情を養う活動】

- ・ 自然のすばらしさや不思議さを感じ取る。
- ・ 自然や動植物を大切にすることの気持ちを養う。
- ・ 森を守るための様々な活動について知る。

【木とふれあう活動】

- ・ 木を適切に使用することが森を守ることにつながることを学ぶ。
- ・ 普段の生活の中で木や森に触れる機会の少ない子供たちに、積み木遊びを通して森林や自然が与えてくれる恵みを知る。
- ・ 3種類の積み木を使い分けながら、想像力や協調性、完成した木の達成感や喜びを味わう。

② 活動内容

甲運小学校では、3つの活動を一つのプログラムとして公益財団法人オイスカ山梨県支部の協力のもと森林体験活動を行っています。

3つの活動とは【森を育てる活動・自然とふれあう活動】【森を守る心情を養う活動】【木とふれあう活動】です。このプログラムは、平成22年に学校として体験的に自然とふれあう活動を行いたいと考えていたところオイスカと協力することにより始まりました。

プログラムの内容は、オイスカと打ち合わせを重ね、活動のねらいの共有を図り、協力して作りました。近年は、プログラムの内容に変更は加えず、実施するにあたり、日時や交通手段などの具体的な準備の打ち合わせを約1ヶ月前に行っています。

【森を育てる活動(植林体験、食害被害防止のネット掛け)・自然とふれあう活動】

3年生の児童50人が、植林体験などを行う活動です。オイスカの協力を受け、富士山の森を活動場所にして、苗木の植林活動を行っています。富士山の林道が開く5月連休明けに、苗木を植林するための技術者(10名程度)、森林の説明を担当する講師(2～3名)、交通費(バス代)、仮設トイレ設置など、オイスカと事前に打ち合わせを行い用意してもらっています。また、シカの食害防止用のネット掛けも同時に行います。

実際の活動として、始めに富士山の森について、実際の森の様子を観察し、森の大切さなどを講師から話をしてもらい、実際の植林体験を始めます。1班4名程度にグループ分けし、日々実際に作業をしている技術者の方と一緒に5本程度を植林し、ガード掛けを行います。前もって作業員の方が穴を掘るなど準備をしておいてくれます。約1時間の活動ですが、森を守ることの大切さや実際の食害、自分たちが植林した木の生長を想像しながらの活動なので、話だけでない貴重な体験になっています。また、昼食後は、ネイチャーゲームや、自然散策、溶岩の観察など講師による指導のもと、野外の活動も行います。



【森を守る心情を養う活動】

森での活動の約1月後に森を守る心情(自然愛護の気持ち)を育てていく活動を行います。本校では道徳の時間として、実際に児童が植林体験やネイチャーゲームでの経験を授業のスタートとし、その時感じた思いをもとに授業を実施していきます。また、植林体験をしたときの講師の方やオイスカの方を外部講師として話し合いにも参加してもらっています。



【木とふれあう活動】

森林体験活動のまとめとして、10月頃、「積み木遊び」の活動を行います。オイスカの方を講師に児童と保護者で実施します。体育館に赤の絨毯を敷き、その上にたくさんの積み木を用意して、オイスカで計画したプログラムを活用して行う約90分の活動です。本校では、親子活動も兼ねていますので、親子のふれ合いという要素、また、保護者への啓蒙という要素も含めています。しかし、カリキュラムを見直し、ねらいを変えることで、児童だけの活動でも可能です。



教科の位置づけ

総合的な学習の時間、道徳、図画工作

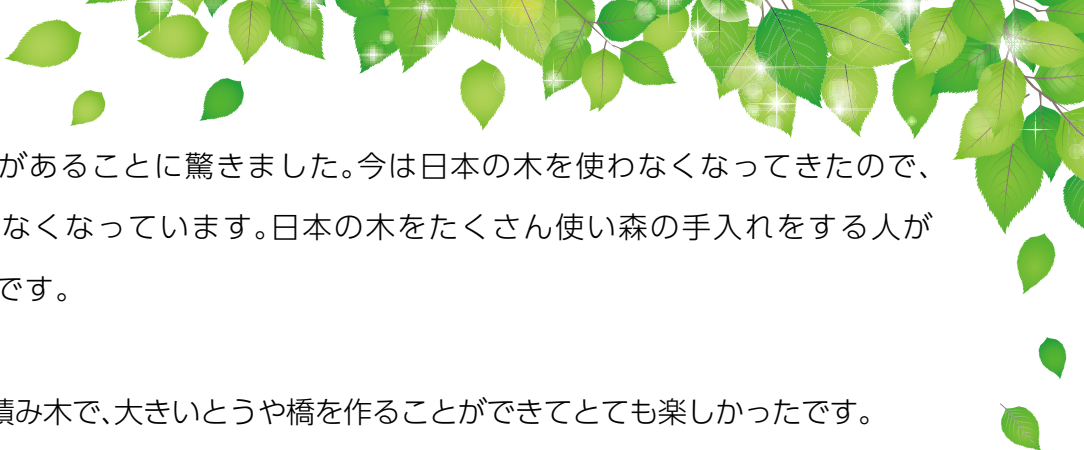
③ 児童・生徒の感想

【森を育てる活動・自然とふれあう活動】

- ・ 森を作る活動で木を植えました。なぜかという、木は私たちがはく二酸化炭素をすって酸素を作ってくれる大切なものだからです。たくさんの木を植えました。大きくなった木を見てみたいです。
- ・ 富士山はいつも見ているので普通の山と同じだと思っていました。でも、森には木が少なく、生き物もあまりいませんでした。虫が葉を食べてしまうから一度木を切ってまた、植えるということを教えてくれました。ぼくたちが植えた木が早く大きくなってほしいです。
- ・ 森の中で生き物探しをしました。講師の先生が、手入れがしっかりとした森にはたくさんの生き物が住んでいるよと教えてくれました。今日植えた木も大きくなって生き物の役に立って欲しいです。
- ・ 森のビンゴをしました。カードに書いてあるものを見つけるのは大変でした。いろいろなものを見つけることができて、とても楽しかったです。

【森を守る心情を養う活動】

- ・ 動物や他の生き物が住める森にするには、環境の良い森にする必要があります。だから、森に木を植えたり手入れをしたりして森を守るとはとても大切なことだと思いました。
- ・ 富士山の森は、一種類だけだと思っていたけれど、いろいろな動物が住むための森、家を作



るために必要な木の森があることに驚きました。今は日本の木を使わなくなってきたので、あまり森の手入れをしなくなっています。日本の木をたくさん使い森の手入れをする人が頑張れるようにしたいです。

【木とふれあう活動】

- ・ 普段、さわることがない積み木で、大きいとうや橋を作ることができてとても楽しかったです。
- ・ 私は友だちと一緒に大きな丸いビルを作りました。一回こわしたことは、悲しかったですが、次に作ったときは前よりもすてきな物ができました。こんなすてきな物ができてとてもうれしいです。
- ・ 私たちが使った積み木は木を切って作った物だそうです。優しい手触りや、いいにおいがしました。

④ 活動の成果と課題

富士山での植林体験はあまり体験できない貴重な体験です。本物の木に触れ、森作りに関わることで、児童の環境や自然を守ることへの関心や生き物への親しみにつなげることができました。同時に、そこで活躍する人の仕事に対しても興味・関心をもつことができました。

また、実際の自然をフィールドにした活動をしたことで、無理なく森を守る心情を育てる活動につなげていくことができました。

プログラムの最後の活動が「積み木遊び」ですが、単に楽しく積み木で遊ぶだけでなく、遊んだ積み木のように、いろいろな形でたくさん木を使うことが森を守ることであり、そのことによって人間と自然の共存が図られていくというまとめの学習につなげることもできました。

さらに、積み木素材の柔らかな木の感触、木の香りの中での積み木の体験は、森林や自然が与えてくれる恵みを知ることができ、子供の精神面での成長に役立っています。

植林をしているときの子供たちの真剣な顔、講師の話を聞きながら自分の体験を振り返っているときの顔、単純な積み木ではあるが、子供たちの創造力やできたときの達成感に満ちた顔などを子供たちの表情から見取ることができました。

本校での森林をテーマにした3つの活動(森を育てる、森を守る心情を養う、木とふれあう)を行うことで、無理なく、環境学習に取り組むことができます。

課題としては、現在森の大切さを3つの活動をそれぞれ社会科見学、道徳、図画工作というかたちで行っていますが、さらに深めるために、環境をテーマに、森林体験活動を中心にした総合的な学習の時間として作成し、直していく必要があると考えています。また、木とふれあう活動としてつみき広場で終わっていますが、さらに一歩進めて、私たちの生活の中でできる活動につなげていくことも必要だと思います。

⑤ 活動経費

活 動	科 目	金 額	備 考
森を育てる活動	講師謝金	¥75,000	全体指導者¥25,000×2名 講師¥25,000×1名
	資材費	¥173,040	苗木代150本 獣害対策資材150セット
	交通費	¥140,600	¥64,800×2台 高速代¥6,000 ガソリン代¥5,000
	借上・使用料	¥50,000	仮設トイレ 雨天時待避用会場
	合 計	¥438,640	
森を守る心情を養う活動	講師謝金	¥40,000	¥20,000×2名
	講師交通費	¥7,200	高速代
	燃料費	¥5,000	ガソリン代
	合 計	¥52,200	
木とふれあう活動	開催費	¥78,650	講師謝礼 交通費、 積み木使用料 このうち交通費の補助として学校から¥10,000支出している
	合 計	¥78,650	
	総合計	¥569,490	

⑥ 利用した助成制度

助成制度名称	金額
オイスカプロジェクト	¥559,490





2 山梨大学教育学部附属小学校の取り組み

① 活動のねらい

- ・「探検する意欲」…日常では体験できない場所へ行くので、そこから自分自身がどこへ向かうのか、また何をすべきなのかを探る。自らが目的意識をもって取り組むことができるようにする。
- ・「五感を使う」…自然の不思議さやおもしろさを実感することができるよう視点をもって取り組むことができるようにする。
- ・「集団行動のよさを学ぶ」…自然体験を通し、他者理解を深める。その中から、自分自身の行動を見つめ、よりよく集団生活ができるようにする。さらに日常生活と照らし合わせ、工夫しながら生活を改善することができるようにする。

② 活動内容

【ハヶ岳の自然を体験しよう】

毎年10月に5年生100名ほど、引率教師6～7名がハヶ岳の少年自然の家において2泊3日の自然体験プログラムを実施しています。

プログラムの主な企画は、学年主任が行います。その企画を基に自然の家の職員と相談しながら内容を決定します。自然の家の職員との打ち合わせでは、上記の学習のねらいを伝え、その達成に沿ったプログラム内容を設定しました。主なプログラム内容としましては、冒険ハイクと美し森絵図ハイクです。

事前学習として、絵図ハイクでのコース確認や森林を歩く際の歩き方や植物の種類を学びました。

自然の家の森林には、友達と協力しないとクリアできないアトラクションがあります。冒険ハイクとは、そのアトラクションを友達と協力して、ひとつひとつ乗り越えながら、ゴールを目



指すというゲームです。自然の家の方から丁寧に説明をしていただき、5～6名のグループを作り取り組みました。すべて木造の遊具を満喫し、学校にはない木のぬくもりを感じる遊具で体をいっぱいに使うことができました。

絵図ハイクとは、絵地図を頼りに、自然の家から美し森を経由して、また自然の家まで戻るという内容です。5～6人のグループを作り、コースは全長約5km、チェックポイント5箇所を通過します。各チェックポイントには、本校職員を配置し、各グループの進捗管理をしました。美し森の頂上をめざす一方で、歩きながら植物を観察したり、清流の流れる音をじっくり聞いてみたりとコンクリートの上を歩くこととの違いや甲府の町には見られない植物や静寂さを感じ取ることができました。

事後学習については、一人一人が決めた目標、友達と協力する、自然の大切さを感じるなどの目標が達成できたか振り返りました。



教科の位置づけ	理科、社会、総合的な学習の時間、道徳
---------	--------------------

③ 児童・生徒の感想

- ・ 絵図ハイクでは、森の中をグループで歩く中で木のにおいを嗅ぐことができました。友達の家は木が多く使われている家であったので、同じにおいがしたときに友達の家を思い出しました。とても心地よいにおいで改めて木の良さを感じることができました。
- ・ 友達と普段ここまで力を合わせながら活動するということはなかったと思う。大きな声を出して、励ましたり、手を差し伸べたりしたことは良い経験になりました。
- ・ 直角に反り立つ壁など絶対に超えられないと思いましたが、友達が上から手をつかんでくれました。とてもうれしかったです。友達と助け合う大切さを改めて感じるすることができました。
- ・ 野外活動では、電気もない街灯もない場所で一体何をするのかと不安になりましたが、大草原のど真ん中で寝そべりながら空を見上げた瞬間に感動しました。空一面に星が広がり、星がこんなにも近く、きれいだとは思いませんでした。

④ 活動の成果と課題

成果としては、自然を感じるという視点から、はじめは不便さを覚えましたが、その不便さを感じたことで日頃の生活がどれだけ恵まれているかを改めて知ることができました。また、その場所でしか感じられない木々のぬくもりや木の持つ無限の可能性、例えば家の材料であったり、家具であったり、様々に形を変えることで自分たちの生活を支えていることに気づくことができました。さらに、それぞれの場所特有の植物を知ること、その環境に適した生態を学ぶことができました。その後、学習を進める中で、その植物を詳しく調べることに繋がり、まとめることができました。

課題としては、天候によるプログラム変更がありました。本来、感じさせたい自然散策などができない場面もあり、代替りのプログラムを進めながらねらいを変更せざるを得ませんでした。また、事前指導をしっかりと行っていないと痒くなったり、痛くなったりする植物に誤って接触してしまう可能性もあり、その指導の時間を捻出することが困難でした。

⑤ 活動経費

活 動	科 目	金 額	備 考
八ヶ岳の自然を体験しよう	交通費	¥437,592	
	食事代	¥250,000	
	宿泊代	¥20,000	
	保険料	¥30,000	
	雑 費	¥4,000	レク用品、写真代、飲み物、通信費等
	合 計	¥741,592	一人当たり¥7,416

⑥ 利用した助成制度

助成制度名称	金額
なし	¥0

3 山梨大学教育学部附属中学校の取り組み

① 活動のねらい

～ 第2学年若桐のつどいのテーマ ～

「大自然の中で仲間と共に活動することを通じて、互いに高め合う校外学習」

～ 第2学年若桐のつどいの狙い ～

富士山の裾野に位置する富士山樹海で壮大な自然と向き合い、体験的な活動を通じて自然の雄大さや素晴らしさを体感させる。そして、集団の一員として自己をコントロールしながら、仲間と協力し合うことの大切さを学ばせる場とする。また職場体験の中で職業観・勤労観を育み、自分の将来に向けて積極的に学んでいく姿勢や態度を育成する。

② 活動内容

【若桐のつどい】

毎年7月、中学2年生約160名、引率教員約10名、今回は林業体験講師約10名、樹海ツアーガイド（講師）約10名で富士山樹海周辺において活動しています。本校は甲府市にありますので、バスでの移動になります。

林業体験や樹海ツアーについては、事前に富士・東部林務環境事務所森づくり推進課の方に来校していただき、山梨県や全国の林業についての説明や間伐の必要性、富士山樹海周辺の自然の成り立ちなど事前授業をしていただきました。その後、打ち合わせを行い、講師の方に内容を設定していただきました。

取り組んだプログラムは、林業体験約2時間、1グループ約10名に北富士林業研究会の講師約2名で2日間の1日目に1・2組の約80名、2日目に3・4組の約80名で実施しました。林業体験は、間伐、間伐材を輪切りするという内容で実施しました。生徒たちは、間伐材を輪切りにする際に、作業を交代しながら行うなど協力して活動していました。また、講師が間伐の最中に見つけたサルノコシカケの説明をしているときは、興味深く熱心に聞くなど、これまで経験したことないことを楽しんでいる様子でした。



樹海ツアーは2日間の1日目に1・2組の約80名、2日目に3・4組の約80名で約50分間、富士風穴までのフィールド内で富士風穴周辺の歴史や自然、動植物について解説をしていただきました。



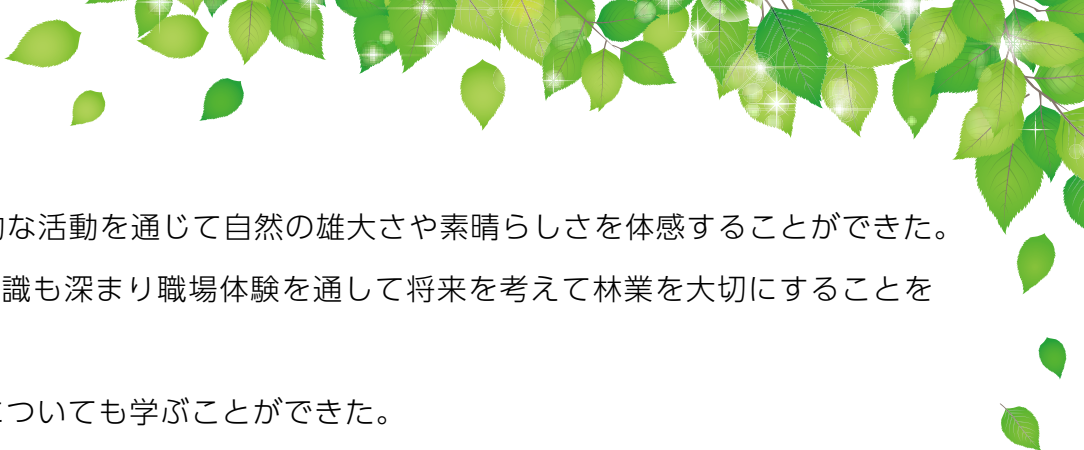
総合的な学習の時間での富士山についての学習も兼ねて、それぞれ富士山について仮説を立て、山梨県富士山世界遺産センターに行きました。また、宿泊場所は国立中央青少年交流の家に宿泊し、自然体験をすることができました。

事後学習については、林業体験や樹海ツアー、富士山世界遺産センターに行って思ったことをレポート、作文にまとめました。

教科の位置づけ	総合的な学習の時間
---------	-----------

③ 児童・生徒の感想

- ・ 林業体験では、助け合いがあり、仲間と団結力が深まることができた。
- ・ 事前学習で聞いていた「森を守るために森林伐採をする。」ということを知り、実際に体験ができて良かったです。
- ・ 天候も不安でしたが、体験の時は雨が上がり、林業体験・自然体験も含め、自然の尊さを学ぶことができました。
- ・ 教えてくれた人は簡単に切っていたけれど、実際にやってみると固くてリズム良く切ることはできなかった。木が倒れる向きを計算しながら作業していて驚いた。
- ・ 森の自然や動物、未来のことを守るための森林伐採に驚かされました。実際に学んだことを現地で体験できて大きく心に刻まれた経験になりました。
- ・ 自然の雄大さや、日本の誇る富士山について改めて考える良い機会になりました。また、未来に向けても私たちができることを真剣に具体的に考えることができました。



④ 活動の成果と課題

- ・ 自然と向き合い、体験的な活動を通じて自然の雄大さや素晴らしさを体感することができた。
また、林業に対しての知識も深まり職場体験を通して将来を考えて林業を大切にすることを学ぶことができた。
- ・ 林業の職業観・勤労観についても学ぶことができた。
- ・ 課題はグループごとで担当して下さった方で教えていただける内容や作業に若干違いがあったことです。

⑤ 活動経費

活 動	科 目	金 額	備 考
若桐のつどい	交通費	¥621,256	
	講師謝金	¥480,000	林業・自然体験
	食事代	¥167,480	
	保険料	¥43,450	
	合 計	¥1,312,186	一人当たり¥8,305

⑥ 利用した助成制度

助成制度名称	金額
森林体験活動支援事業費補助金(山梨県)	¥300,000

4 甲斐市竜王南小学校の取り組み

① 活動のねらい

山梨のシンボルである富士山の麓に広がる青木ヶ原の森林の観察を通して、自然への関心を高め、環境を守ることの大切さを学ぶ。

② 活動内容

【青木ヶ原樹海を観察しよう】

学校の窓からは富士山がきれいに見えます。しかし、その麓に広がる青木ヶ原樹海にはなかなか立ち入る機会をもつことができません。世界遺産でもある富士山について理解を深めると同時に、その麓に広がる森林の様子について、直接目で見て、体験することをねらいとし、5年生65名の秋の校外学習として青木ヶ原ガイドツアーを実施することにしました。

担任の一人が富士東部地域で自然ガイドをされている方を存じ上げていたので、その方と連絡をとって観察に際してのアドバイスをいただくなかで、その方を中心とした方々にガイドをお願いすることにしました。コース設定や具体的な活動内容は、学校側から活動のねらいを伝えたり、ガイドの方のおすすめポイントを教えていただいたりしながら、最終的なコースはガイドの方に設定していただきました。

事前学習として、ハケ岳と富士山周辺の自然の植生や成り立ちの違いを学びました。

ガイドツアーでは、6名にガイドをしていただきました。10名程度のグループでの観察になりますが、同じルートを通っていくので、他のグループと重複しないように5分程の時間差をつけての出発としました。そのため、スタートやゴールで時間に余裕ができたグループは、ガイドから、富士山についての説明を受けたり、自然クイズを出してもらったりして過ごしました。青木ヶ原樹海の中では、グループごとに歩きながら、森の植生や成り立ちおよび変化の様子等について説明をしていただくとともに、児童も森の様子をじっくり観察して、時には質問をしながら、新たに発見したことを確かな知識にすることができました。

事後学習は、ふりかえりシートを使って、体験して感じたことをまとめました。

教科の位置づけ	総合的な学習の時間
---------	-----------



③ 児童・生徒の感想

青木ヶ原の森の下は溶岩だということをガイドさんに教えてもらいその様子を実際に見ることができ、森の木々や植物のたくましさを感じました。でも、その森も環境や生き物、植物同士のバランスの上に成り立っていることを知り、こうした自然を守っていかなければいけないと思いました。

④ 活動の成果と課題

- ・ 直接目で見て、手で触れて、音を聞きながら活動できたことで、児童自身の実体験として青木ヶ原樹海の植生等を学ぶことができました。少人数で活動できたことで、児童一人ひとりが主体者として観察し、新しい発見をたくさんすることができました。
- ・ 本校の所在地である甲斐市から行く際には、現地での活動時間に制約が生じてしまうので、出発および到着時間を考慮する必要があります。

⑤ 活動経費

活 動	科 目	金 額	備 考
青木ヶ原樹海を観察しよう	交通費	¥172,800	¥86,400×2台
	講師謝金	¥45,000	¥7,500×6名
	保険料	¥3,450	¥50×69名
	合 計	¥221,250	一人当たり¥3,206

⑥ 利用した助成制度

助成制度名称	金額
森林体験活動支援事業費補助金(山梨県)	¥180,362

5 上野原市立上野原小学校の取り組み

① 活動のねらい

(1) 八重山プログラム

- ① 八重山や学校周辺における自然体験活動を通して、地域の自然に対する愛着を培い、自然を大切にしようとする意識や行動力を育てる。

【八重山自然観察オリエンテーグ】(4年生)

- ・ 八重山周辺の自然環境について理解を深める。
- ・ 実際に歩いたり、見する中で環境の捉え方きっかけを持つ。

- ② 水越八重女史の道徳について学び、豊かな心を育てる。

② 活動内容

【八重山自然観察オリエンテーリング】(4年生)

上野原小学校には、本校の卒業生である水越八重さんが寄贈した八重山という学校林があります。八重山は学校から北に1.5kmほど離れた上野原中学校の近くにあります。この学校林(八重山)を活用した自然体験活動プログラムの「八重山プログラム」が総合的な学習の時間・生活科の時間に位置づけられています。1年生から6年生までの6年間で八重山や学校周辺の里山を活用した自然体験活動が積み重ねられるように計画されています。

ここでは、令和元年度より新しい教育課程に合わせて4年生が行うように計画した八重山プログラムの「八重山自然観察オリエンテーリング」をご紹介します。オリエンテーリングの内容は、中込前校長が作成しました。講師は、ゆずりはら青少年自然の里の所長と自然観察指導員の方をお願いしました。事前学習は八重山の自然(草花・虫・鳥等)についてクイズ形式で学び、本番を迎えました。

本年度は4年生2クラス計71名、引率教諭3名が、同日の午前中にクラス毎で時間帯を分けて行われました。講師の先生からの自然観察オリエンテーリングの説明を受けた後、60分間の活動時間の設定でオリエンテーリングを行いました。各クラス6～7班に分かれ、1分30秒間隔でスタートしました。各班は、地図を見ながら決められたコースを歩きました。5箇所ほど設定されたチェックポイントでは、「この写真はマムシグサです。秋になるとどんな色になるでしょう？」など八重山の自然に関する問題が出され、それをグループで相談し、答えをオリエ



ンターリングカードに記入しました。講師の先生方が、いくつかのポイントで説明をしてくれたり、一緒に歩いて草花について教えてくれたりしました。

数々の草花に触れたり、野いちごを食べたりして、八重山の様々な自然を体験的に学ぶことができました。

教科の位置づけ	総合的な学習の時間
---------	-----------

③ 児童・生徒の感想

- ・ 八重山の自然にある草花を知ることができました。講師の先生方から草花について説明してもらってよくわかりました。
- ・ 班のみんなと、チェックポイントを回りながら力を合わせてできました。みんなと回って楽しかったです。

④ 活動の成果と課題

- ・ 講師の先生方から八重山の草花について丁寧に説明してもらい、八重山の自然環境について子どもたちの興味・関心をさらに高めることができた。
- ・ 短い時間でしたが、オリエンテーリングの班活動を通して、子どもたちが協力して活動する機会ともなった。

⑤ 活動経費

活 動	科 目	金 額	備 考
八重山自然観察オリエンテーリング	講師謝金	¥ 24,880	
	合 計	¥ 24,880	一人当たり ¥ 350

⑥ 利用した助成制度

助成制度名称	金額
緑の募金事業((公財)山梨県緑化推進機構)	¥ 15,000
いきいき教育地域人材活用推進事業(山梨県義務教育課)	¥ 9,880

6 上野原市立島田小学校の取り組み

① 活動のねらい

学校林や学校周辺の自然の中における体験活動や観察を通して、地域の自然に対する愛着を
培い、自然を大切にしようとする意識や行動力を育てる。

② 活動内容

【学校林で自然観察と冒険活動をしよう！】

毎年11月に本校では自然観察教室を実施しています。令和元年度は3・4年生、約15名、引率
教諭3名、講師を迎え、学校林において、活動をしました。学校林は学校から西に3kmほど離れた
御前山の中腹に位置しています。上野原市鶴島2849番地にあり、11,067㎡の面積です。

プログラムの企画については、講師と事前に打ち合わせを行い、その際に学習させたいこと
を伝え、具体的なプログラム内容は講師の方に設定していただいております。

取り取り組んだプログラムは、自然観察です。講師は都留文科大学の教授に来ていただきま
した。自然観察は、15名1班で実施しました。時間は午前9時に学校を出発し、徒歩で移動し、学
校林に午前9時40分に到着。そこから70分間自然観察教室を設定しました。はじめの5分間は
注意説明、65分間は学校林内を歩く中で、珍しいものを見つけたら、講師の方に解説をしてい
ただきました。

例えば、モグラの剥製やリスの骨を持参していただきながら、動物の足跡や森林に住んでい
る動物の特徴などを講師の方がわかりやすく教えてもらいました。緑の募金事業の助成金から
講師の依頼をしました。

森林遊具のレクリエーションのことを本校では「冒険活動」と読んでいます。自然観察とは別
日に冒険活動を行いました。活動時間は60分です。担任の教員が見守り、児童は自由に活動し
ます。御前山に備え付けのブランコやブリッジや木登り雲梯とはしご、ロープで山をのぼる
(ロープクライミング) など普段遊んでいる金属製の遊具との違いを感じながら、遊ぶ活動で、
全学年が安全に、安心して活動をしています。

事前学習や事後学習については、時間数の関係で特に設定しておりません。体験活動を重視
しております。

児童たちが安全に安心してレクリエーション(冒険活動)を実施できるのも、森林組合の方の
協力があるからです。学校では毎年、森林組合の方と設置遊具の種類や修繕箇所などについて
話し合いを行い、より充実した学校林活動にするために、知恵を出し合っております。このよう
に学校以外の関係団体の方々からも協力を得る中で活動を行っているのが本校の学校林活動
の特徴といえます。



教科の位置づけ	総合的な学習の時間
---------	-----------

③ 児童・生徒の感想

11月に学校林で自然観察教室がありました。9時に学校を出発して、9時40分ごろに学校林につきました。学校林に行く途中で森林の話などを聞きました。学校林の入り口に到着して登り始めました。5分くらい歩くと見晴らしのよい展望台で休憩をしました。展望台からは桂川がよく見え、とてもよい景色でした。展望台を見た後、少し遊具で遊びました。新しくできた遊具で木登りをして遊びました。木登りをした後、斜面を登りはじめ、活動場所に着きました。

講師の先生からお話を聞く、自然観察教室が始まりました。最初はモグラの剥製を見せてもらいました。最初は驚きましたが、モグラの特徴を話してくれました。また、リスが食べた木の実を見せてくれました。食べ方の特徴を話してくれました。講師の先生からは他にも森林に住む動物の話聞き、いろいろな動物が住んでいるんだなと思いました。そして、森を大切にしていこうと思いました。

50分くらい話を聞いた後、学校へ戻りました。来年も学校林に登ってたくさんのことを学習したいと思いました。

④ 活動の成果と課題

【成果】

生活科の時間では、1・2年生はゲームを通して自然に親しむ活動を、総合的な学習の時間では3・4年生は自然を知る活動を、また、5・6年生では間伐材クラフトの活動を通じた自然を活かした活動を、さらには植樹を通して自然活動を行っています。これにより自然へのより豊かな理解と保全の意識高揚を育むことをそれぞれテーマとして活動しており、着実に成果を上げています。

【課題】

緑の募金事業の助成を受ける中で、学校林の活動を行っています。予算面も昨年度より減額しましたが、助成がなくなると活動自体も不安定となります。そこで、確実な予算を確保できるという見通しを持った中で、活動を継続していきたいと思っています。また、指導者の確保や学校林を活用しての学習の教材化や保護者・地域に本校の学校林の活動を周知していき、地域の方を巻き込んだ学校林活用をどのように広げていくかなど、より充実させていくかが課題です。

⑤ 活動経費

活 動	科 目	金 額	備 考
学校林で自然観察・冒険活動をしよう	講師謝金	¥ 15,000	3・4年生自然観察 謝金 ¥ 15,000
	合 計	¥ 15,000	一人当たり ¥ 1,000

⑥ 利用した助成制度

助成制度名称	金 額
緑の募金 緑の少年隊事業 (山梨県緑化推進機構)	¥ 15,000